

第6学年2組 体育科保健領域学習指導案

平成30年2月8日(木) 公開授業Ⅱ

会場 3階-⑤(W 6年保健)

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校

養護教諭 長谷川由紀

教諭 浅間 一城

1 単元名 解き明かせ、病気のナゾ! — 病気の予防 —

2 本単元の価値

新学習指導要領体育科第5学年及び第6学年の目標及び内容G(3)を受けて設定した。

- (3) 病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 病気の予防について理解すること。
 - (ア) 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こること。
 - (イ) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。
 - (ウ) 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、適切な運動、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。
 - (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう要因となること。
 - (オ) 地域では、保健に関わる様々な活動が行われていること。
 - イ 病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それを表現すること。

環境や生活の変化、科学技術の進歩に伴い、今後、健康課題も変化していくことが考えられる。一方で、情報化社会の進展により多様な健康情報の入手が容易になっている。子どもが未知の健康課題に直面したとき、その解決のために既存の知識を基に適切な行動を考えたり、正しい情報を選択したりできることが大切である。つまり、思考力や判断力がますます重要になるのである。新学習指導要領でも「思考力・判断力・表現力等」が新たに加わり、その育成のために子どもが課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、よりよく解決する学びの過程の工夫が求められている。

本単元では病気の予防に関する事象について学習する。全てが「病気の予防」というテーマでつながっているが、「インフルエンザの予防にはマスクをしたり、早寝早起きをしたりすればよい」といった予防の仕方のみでの理解、「喫煙は悪影響を及ぼす」といった個々の病気の理解に留まる子どもの姿があった。病気の要因と予防方法とを関係付けて考えられていないのである。これは、単元導入の学習において、子どもに病気の要因の“原則”をとらえさせていないことにある。

従来指導では、子どもに病気になるときを想起させたあと、教師が4つの病気の要因にまとめ、子どもに他の病気にも当てはまるかを確かめさせる指導が多かった。しかし、これでは「結核は当てはまる」「熱中症は3つしか当てはまらない」と個々の病気の理解に留まりやすく、病気全般に当てはまる“原則”としてとらえさせることが難しかった。そこで、単元導入の「病気の起こり方」の学習において、子どもが病気の要因の原則を見いだす学習を行う。病気の要因の原則は予防方法を考える際の根拠となる知識である。そして、見いだす過程で「この病気の要因ってなんだろう」のように病気の要因に着目させることで、病気の要因と予防方法とを関係付けて考えられるようになる。この、病気の要因に着目し、病気の要因や予防方法を考える姿が本単元における保健の「見方・考え方」を働かせている姿である。

単元導入で、子どもが保健の「見方・考え方」を働かせ、病気の要因の原則を見いだすことができれば、次時からの学習においても、保健の「見方・考え方」を働かせ、見いだした病気の要因と予防方法とを関係付けて考えられるようになる。これは生涯にわたって健康を保持増進、回復していくための資質・能力の育成につながる。これが本単元の価値である。

3 本時の目指す姿

複数の病気の要因を比較することで病気の要因の原則を見いだす子ども

具体的には、複数の病気の要因を比較することで、病気になるときは「病原体」「環境」「生活行動」「ていこう力」が関わっている、と病気の要因の原則を見いだす子ども。

4 働かせる「見方・考え方」

病気の要因に着目し、複数の病気の要因や予防方法を関係付けること

5 育成する資質・能力

別紙、「指導計画」参照

6 本時の指導の構想

インフルエンザやかぜなどの一般的な予防方法を知っている。保健指導により、免疫力の働き（体内には病気から守ってくれる免疫力スペシャル6がいる）、のどの線毛運動（ウィルスを外に追い出して病気から守ってくれる働き）について知っている。

働き掛け1

未知の病の事例を提示し、予防方法を問う。

「見方・考え方」を引き出し問いをもたせるための働き掛けである。

まず、**病気の要因に着目する**という「見方・考え方」を引き出すために複数の未知の病が発生した、という事例を提示し、どんな予防方法を行うかを問う。子どもは「手洗い、うがい。手やのどに菌がついて起こるかもしれないから」「早寝早起き。免疫力が下がるとよくないから」のように、病気の要因を予想し予防方法を挙げる。これが、病気の要因に着目する姿である。

そして、学習課題を設定するために、結局どの予防方法が全ての未知の病を予防できそうかを問う。子どもは、健康の保持増進に取り組もうとする態度（③態度）発揮して「分からない。だって病気の原因が分からないから」と未知の病の要因に着目し、問いをもつ。そこで「病気になるときはどんなときだろう」という学習課題を設定する。

働き掛け2

病気になるときは3つに大別されることを提示したあと、どうやって考えたら病気になるときのことが考えられそうかを問う。

「見方・考え方」を明確にし課題解決の見通しをもたせるための働き掛けである。

まず、**複数の病気の要因や予防方法を関係付ける**という「見方・考え方」を引き出すために、どのようなときに病気になるかを問う。子どもは「手洗い・うがいをしないとき」「寝不足のとき」「ばい菌がいるとき」「マスクをしていないとき」など既存の知識を想起する。

次に、複数挙げられた既存の知識を共通点でとらえさせる必然性をもたせるために、病気になるときは3つに大別されることを提示（ヒポクラテスのメール①）する。そして、**病気の要因に着目し、複数の病気の要因や予防方法を関係付ける**という「見方・考え方」を明確にし、課題解決の見通しをもたせるために、どうやって考えたら病気になるときのことが考えられそうかを問う。子どもは、「病気になるときの共通点を考えたらいい」と、病気の要因の関係性を判断し、予防方法を選択したり、説明したりする力（②思考力・判断力・表現力）を発揮し、病気の要因の共通点を考えることが課題解決につながるという見通しをもつ。

働き掛け3

複数の病気の原因を提示し分類する時間を設定したあと、分類名を問う。

課題解決のために必要な情報を収集させるための働き掛けである。

まず、複数の病気の要因を比較させるために、子どもにとって身近な4つの病気（インフルエンザ、感染性胃腸炎、熱中症、虫歯）の要因を提示し分類する時間を設定する。子どもは、病気の要因の関係性を判断し、予防方法を選択したり、説明したりする力（②思考力・判断力・表現力）を発揮して、4つの病気の要因を比較し共通点で分類する。その際、Yチャートやベン図を使ったりして（ツール活用能力）、班の友だちと協力して考える（協働性）。そして、分類した病気の要因を一般化してとらえさせるために分類名を問う。子どもは『ウィルス・ばい菌』『環境』『生活習慣』という分類名にしようのように、分類した病気の要因を総合する分類名を考える。そして、「病原体」「環境」「生活行動」という分類名と抵抗力について説明する。

働き掛け4

病気になるときはどんなときと言えるかを問う。

病気の要因の原則を見いださせるための働き掛けである。

まず、病気の要因の原則を見いださせるために、病気になるときはどんなときと言えるかを問う。子どもは、病気の予防に関する知識（①知識・技能）を発揮して、「『病原体』があつて『環境』や『生活行動』がよくなかつたりして『抵抗力』が落ちているときに病気になりやすい」と、**複数の病気の要因を比較することで病気の要因の原則を見いだす子どもになる。**

働き掛け5

未知の病を予防するためにはどうするかを問う。

発揮した資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

未知の病を予防するためには、どのようなことを基にして、どんな予防をするかを問う。子どもは「まず、未知の病の原因を調べて、その原因に合わせて予防を考える（②思考力・判断力・表現力）。病気は、病原体、環境、生活行動、ていこう力が関わって起こるから、まずはマスクをして病原体を防ぐこと、そして、早寝早起きをしたり好き嫌いをせずに食べることで生活行動をよくして抵抗力を高めること。加湿や保温をして環境をよく保つこと（①知識・技能）」のように考え、発揮した資質・能力を自覚する。

7 指導計画 全8時間

別紙「指導計画」参照

8 本時の構想<第1日目> 1/8時間(45分授業)

(1) 本時のねらい

4つの病気の要因を比較し共通点で分類することで、病気の要因の原則を見いだすことができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 未知の病を予防するにはどうしたらよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未知の病?どんな病気? ・え、次々発生しているの? ・うがい、手洗い。手やのどに菌がついて起こるかもしれないから ・早寝早起き。免疫力が下がるとよくないから ・患者に近づかない。患者からウィルスがうつるかもしれないから ・マスクをする ・どれだろう? ・全部やればいいんじゃない ・未知の病だから、とりあえずいろんな病気の原因を全部防げばかからなそう ・病気の原因が分からないと予防は考えられない <p style="text-align: right;">☆保健③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがいをしないとき ・寝不足のとき ・ばい菌があるとき ・マスクをしていないとき ・寒いときや空気が乾燥しているとき ・免疫力が落ちているとき ・栄養バランスがわるいとき <ul style="list-style-type: none"> ・え、病気になるときって3つなの? ・3つに分けられるって、どう分けられる? ・ウィルスとばい菌と違ってこと? <ul style="list-style-type: none"> ・病気の原因の共通点を考えたらどう ・例えば「寝不足のとき」と「栄養バランスがわるい」は両方、生活習慣だよ <p style="text-align: right;">☆保健②</p>	<p>○OMT説明「世界には2万以上の病気があります。今後、新たな病気が起こるかもしれません」</p> <p>OMT発問「おや、緊急ニュースです。未知の病が発生しました。全ての病気を予防するにはどんな予防をしますか」</p> <p>※未知の病の事例を提示する 【働き掛け1】</p> <p>○OMT発問「結局、どの予防方法が全ての未知の病を防げそうですか」</p> <p>※補助発問「なぜその予防方法がよいと思うのですか」</p> <p>※補助発問「どんなことが分かれば予防方法が考えられますか」</p> <p>○学習課題を提示する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>病気になるときはどんなときだろう (病気の原因)</p> </div> <p>OMT発問「病気になるときはどんなときでしょう」 【働き掛け2-①】</p> <p>○OMT指示「おや、メールが届きました」</p> <p>※ヒポクラテスのメール①を提示する</p> <p><small>世の中にはいろいろな病気があるが、病気になるときというのは、結局はたった3つに分けられるのじゃ。賢い諸君、さあ見付けてみよ!</small></p> <p>OMT発問「病気になるときは3つに分けられるそうです。どうやって3つに分けますか」 【働き掛け2-②】</p>
<p>2 複数の病気の要因を分類し、病気になるときはどんなときかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つならYチャートを使いたい ・「インフルエンザウィルス」と「ノロウィルス」はウィルスという共通点だよ ・「空気が乾燥していた」と「気温が高かった」は、天候という共通点だよ ・「歯みがきをしない」と「手洗いが不十分」は生活習慣かな? <p style="text-align: right;">☆保健②, ツール活用能力, 協働性</p>	<p>○OMT指示「身近な病気の原因を調べてきました。ここから3つの病気の原因を見付けてみましょう」 【働き掛け3-①】</p> <p>○OST発問「ホワイトボードを使って考えましょう。3つに分けるならどんなチャートや図を使いますか」</p> <p>※黒板で分類のデモンストレーションを行う</p> <p>※ホワイトボード、病気の要因(インフルエンザ・感染性胃腸炎・熱中症・虫歯)を配付する</p>

- ・「ウイルス・ばい菌」「環境」「生活習慣」という分類名にしよう
- ・「菌」「気温・外」「生活」かな
- ・「ウイルス・菌」は「病原体」だね
- ・「気温・外」は「環境」だね
- ・「毎日の生活」は「生活行動」か

- ・もう1つあるの？3つの真ん中に入るみたいだけど
- ・免疫カスペシャル6だ！働きが落ちているときじゃない
- ・のどのせんもうの動きがわるいときも？
- ・なるほど、ていこう力が落ちているときか

3 病気の要因の原則を見いだし、未知の病の予防を考える。

- ・病原体があつて、環境や生活行動がよくなかったりしてていこう力が落ちているときに病気になりやすい

★保健①

- ・未知の病の原因を調べて、その原因に合わせて予防を考える
- ・病気は、病原体、環境、生活行動、ていこう力が関わって起こるから、マスクをして病原体を防いだり、早寝早起きをしたり好き嫌いをせずに食べることで生活行動をよくして抵抗力を高めること。加湿や保温をして環境をよく保つことをして予防をする

★保健①②

OST発問「どんな分類名を付けますか」【働き掛け3-②】

- OST指示「分類名を発表しましょう」
- ※補助発問「なぜその分類名を付けたのですか」
- OMT説明「この分類名は、病原体、環境、生活行動と言います」

- OMT指示「おや、また、メールが届きましたね。」

※ヒポクラテスのメール②を提示する

実は、病気の起こるときはもうひとつあるのだ。ヒントを授けよう。この図じゃ。おぬしらの体のなかで24時間病気にならないように戦っているアレと言えば…？



- OMT発問「病気の起こるときはもう1つあるようです。为什么呢？」
- OMT説明「免疫カスペシャル6や喉のせんもうの働きのように、病気から体を守る働きのことをていこう力と言います」

OST発問「病気になるときのことが分かってきました。病気になるのはどんなときと言えますか」【働き掛け4】

- OST指示「ワークシートに記述しましょう」
- OST指示「発表しましょう」

病原体があるとき、環境や生活行動がよくないとき、ていこう力が下がっているときに病気になる

- OMT説明「インフルエンザはウイルスという病原体がないと起こりませんが、ウイルスがいれば必ずかかるわけではありません。手洗いなどの生活行動をしていたり、換気をして環境をよくしたりしていれば体には入りません。体内に入っても、ていこう力が高ければ発症しません。4つが関わり合って病気が起こります」

OST発問「病気になるときのことが分かりましたね。未知の病が起こったら、どのようなことを基にして予防を考えますか」【働き掛け5】

- OST指示「ワークシートに記述しましょう」

(3) 評価

「病原体」「環境」「生活行動」「ていこう力」が関わって病気になるという原則を見いだせたかを、ホワイトボード、ワークシートの記述から評価する。